

あわ爺のこれだけは知っておきたい「内視鏡 knowledge」

日本消化器内視鏡技師会名誉委員
元熊本地域医療センター内視鏡検査課長
淡路誠一

「講演主旨」

まず最初に「Knowledge」とは。から述べさせていただきます。これはおおまかに「知識」を表します。本テーマではさらにこの表現に知恵、知見、認識、理解なども含めた総称とする意味と内容ともさせていただきます。よってあわ爺の内視鏡検査介助 40 年の経験をもとに①内視鏡災害②内視鏡コロナ③内視鏡介助の 3 つのカテゴリーを取り込み「内視鏡 Knowledge」というテーマとした次第です。

本講演では 11 題のセクションとした内視鏡 Knowledge をお話しし、①内視鏡災害の Knowledge として「災害（地震）」、③内視鏡介助の Knowledge として「問診」「説明」をお話し、今現在の②内視鏡コロナの Knowledge 「コロナ」のあとに、再び③内視鏡介助の Knowledge とする「お肌」「ツボ」「技」「介助」「機器管理」「送り」「確認」をお話しさせていただきます。それも本来はお話しでなく経験を含めたことを「伝える」、この言葉があわ爺としましては適切でもあると思っていますところでは。

「問診」や「説明」では本来の教科書的説明ではなく、それらへの取り組む姿勢を。「お肌」では内視鏡医療スキンテア。「ツボ」では検査中の「暖気」や「吃逆」の止め方を動画で公開説明致します。動画ではさらに「技」として各介助のコツとポイント、「機器管理」では実際のトラブル時の模様まで。また「送り」では SBAR 申し送り法。「確認」ではサインインからサインアウトまで。そして「コロナ」では咽頭麻酔におけるスプレーとビスカスの前処置の実際を供覧し、比較することで適切な方法を検討、検証して頂くことができるなど、一つでも少しでも何かを「伝えられ」、そしてそれらの各 11 のセクションに、あわ爺が思う「内視鏡愛」の心と気持ちを述べさせていただきます。そしてそれを皆様方とも共にその内視鏡愛を求めていくことができたなら、それはつまり患者様のためとなっていく事は言うまでも御座いません。

またあわ爺の格言があります。それは「治療に術があるなら介助にも術がある」であり、コロナ禍の今、オンデマンドをご視聴ご参加の皆様方に特に伝えたいのは「検査が終わっても、コロナが終わっても、内視鏡愛は変わらない」。これを最後の言葉とさせていただきます。今後益々の東北消化器内視鏡技師会の発展をお祈り致します。